

- 2面 令和7年度事業計画の概要
【学会の目・眼・芽】全国造園デザインコンクールとランドスケープ作品選集 造園家の芽 (公社)日本造園学会理事、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科教授 入江 彰昭
3面 第42回全国都市緑化ぎふフェアのご紹介 岐阜県支部長 中山 忠
地域リーダーズ勉強会実施報告 四国総支部リーダー 田川 弘
4面 【ふるさと自慢】 これからの人生を無事安泰に 太古の詩情を今に伝える椿さん 三重県支部 近藤 秀徳 (近藤緑化(株))
【緑滴】 うちの娘たち 山口県支部 藤本 理恵子 (樹下園植木)



第2回 通常理事会を開催

事業計画・収支予算(案)など審議・承認

理事会の冒頭、あいさつする和田新也会長

令和6年度第2回通常理事会を3月27日、東京都千代田区のTIME SHARING水道橋タナカビルで開催し、令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)など3議案を審議、承認した。

第2回通常理事会は、はじめに和田新也会長があいさつ。「私ども造園建設業界を取り巻く経営環境は、資材の高騰、働き方改革への取組、担い手の育成・確保など、課題も山積している。これらの多くの課題については、従来からの事業の適切な実施に加え、新たな事業展開を図り、造園業界の発展基盤の強化を進めていく必要がある。本日は、「令和7年度事業計画及び収支予算」等についてのご審議をお願いするとともに、皆様方には、日造協の運営について、一層のご協力を賜りたい」と述べた。

続いて、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長より、ごあいさつと「公



園緑地行政をめぐる最近の話題についてお話をいただきました。

令和7年度事業計画では、諸課題への対応方向として、担い手の育成・確保、働き方改革への対応など7つの重点事項を掲げ、事業の実施、組織運営に取り組むこととした(概要は第2面)。

会議ではそのほか、造園工事の樹上安全作業マニュアルや「造園の仕事に役立つ!技術・工法・資材のアイデアリンク集」発行などについての報告が行われた。

樹林

(一社)日本造園建設業協会監事 (株)清香園 代表取締役社長 阪上 清之介



疲弊する地方、職域を考える

皆さま、こんにちは。昨年より監事を拝命いたしました阪上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

さて、私は平成20年より日本造園建設業協会の総務委員会の委員として、「財政運営基本対策検討部会」「新法人検討部会」「社会保険未加入対策部会」など、「日造協ビジョン21」の政策に基づく諸活動に携わってまいりました。その約10年間の協会運営の中で、組織の変遷や財政改革を目的に、まさに変革期に立ち会ってきたと実感しております。当時、協会の減少が顕著で、毎年100社を超す退会が続く状況の中、財政の収支バランスを保つため、事務所は華やかな麴町五丁目から本郷二丁目、そして現在の本郷三丁目へ移転を余儀なくされ、協会を去っていった職員もいます。また、公益社団法人化を目指した協会も、活動内容と公益事業比率の制約から、最終的には一般社団法人としての道を選択することとなりました。

造園業界を取り巻く厳しい現状

さて、平成も後半に入ると、造園工事の発注が激減します。それまで、全国どこの町の入り口にも「緑と健康の都市〇〇」と大きな立て看板が掲げられ、年間を通して途切れることなく工事が発注される、まさに「買い手市場」の黄金期が続いていました。しかし、この好景気に甘んじ、業界全体が危機感を持たずにいたことが、やがて大きな代償となります。

バブル崩壊(平成3年)後も、緑化産業は一定の需要を保っていましたが、徐々に停滞し、平成20年のリーマンショックでさらに追い打ちを受けます。その後の景気回復期には、「医療・介護」「子育て支援」などが社会の優先課題となり、造園業界は取り残される形となりました。

気がつけば、造園工事の発注は皆無

に等しく、私の住む埼玉県では平成初期と比較して3割程度にまで縮小。他の建設業は業種にもよりますが6~7割程度回復している中、造園業界の低迷は顕著です。ここで浮かび上がるのは、「職域活動」を継続してきた業界と、そうでない業界の明暗です。

職域活動の重要性

「職域活動」とは、業界や職業団体が、自分たちの業界の利益や働く人々の環境を守るために、政策に影響を与える活動です。私達造園業界においては、以下のような取り組みが求められます。

- 1. 造園工事の契約条件の改善
・過度な価格競争を防ぎ、適正価格での契約を確保する。
2. 公園・街路樹の維持管理予算の確保
・造園業者の役割を強化し、適切な事業機会を確保する。
3. 人材育成と労働環境の改善
・若手育成のための補助金制度の整備。
・働きやすい環境づくりの推進。
4. 業界の社会的地位の向上
・造園業が社会に不可欠な産業であることを広く発信する。
・政策決定の場に業界の声を反映させる。

これからの造園業界に必要なこと

私たちが今直面している課題の多くは、長年「職域活動」をおろそかにしてきたことが要因と考えます。しかし、これからでも遅くはありません。行政や政治家と連携し、業界全体で職域活動を強化していくことが、造園業の未来を切り拓く鍵となります。「緑と健康の都市〇〇」の看板が姿を消した今だからこそ、もう一度造園業の価値を見つめ直し、社会に必要とされる業界へと再生していかなければなりません。

皆さまとともに、「職域活動」の重要性を考え、そして取り組み、造園業界の未来を切り拓いていきたいと考えます。

園芸博の会場計画、出展概要など発表

GREEN x EXPO2027 開催2年前記者発表会



登壇した和田新也会長(前右列から3番目)

GREEN x EXPO2027 開催2年前記者発表会が3月19日、日本橋三井ホールで行われた。GREEN x EXPO2027「2027年国際園芸博覧会」は、令和9年3月19日~9月26日まで横浜で開催され、日造協は国際園芸家協会(AIPH)加盟団体として、開催に向けて協力してきた。

発表会当日は、主催者あいさつの後、会場計画・出展関連概要やライセンス商品の販売開始などの発表のほか、出展内

定者紹介とフォトセッションが行われ、日造協からは和田新也会長が登壇した。

日造協 自由民主党から感謝状 社会の発展に貢献

令和7年3月9日、グランドプリンスホテル新高輪で開催された第92回自由民主党大会において、日本造園建設業協会が特別表彰され感謝状が贈呈された。

人事異動

国土交通省都市局関係(3月31日付) 大臣官房付・即日辞職=鈴木修二((独)都市再生機構統括役員) (独)都市再生機構統括役員=舟久保敏(岐阜県都市建設部都市公園・交通局長) (独)都市再生部都市施設整備室公園課長=富所弘充(国交省関東地方整備局・建政部公園調整官) 国土交通省都市局関係(4月1日付) 国交省関東地方整備局・建政部公園調整官=秋山義典(熊本市都市建設局長)

令和7年度 通常総会

講演会・意見交換会 6月26日(木)14:00~ ホテルグランドアーク半蔵門 東京都千代田区半蔵門1-1 ☎03-3288-0111 会員の皆様のご参加をお願いいたします。

人とつながる 緑とつながる

全国造園フェスティバルの新テーマと新デザイン決まる

全国造園フェスティバルの新しいテーマについて、会員の皆さまに公募し、46案をいただきました。ご応募された皆さま、ありがとうございました。

応募案について厳正な審査を行った結果、松元せい香さん(株)新松戸造園、千葉県)の「人とつながる 緑とつながる」に決定しました。

新テーマには、全国造園フェスティバルが一方通行の催しではなく、参加された方々がさまざまな体験を通じて、みどりの大切さを感じられる機会にしたいという思いが込められています。

今後はこのテーマのもとで、全国造園フェスティバルを開催します。花と緑の大切さ・魅力をアピールするためご協力をお願いいたします。



新テーマ・デザインを使ったのぼりなどのイメージ



令和7年度事業計画

I. 造園建設業を取り巻く状況と対応方向

(1) 造園建設業を取り巻く状況と課題

わが国においては、世界的な情勢不安等によるエネルギーや建設資材価格の高騰、人材不足などにより、令和6年の倒産件数が平成26年以降過去最高となるなど経済社会活動に多大な影響を受けているところである。このようななかで、政府においては、賃金上昇が物価上昇を安定的に上回る経済を実現し、「賃上げと投資がけん引する成長型経済」への移行を確実にするため各種取り組みが進められ、また、経済成長と社会課題の解決に向けてデジタル技術の活用(DX)、気候変動への対応、生物多様性確保などの環境や社会経済に関する持続可能性、人々のウェルビーイングの向上を目指した動きなどが加速化してきている。

造園建設業が携わる身近な公園などの緑のオープンスペースの重要性は、コロナ禍を経て広く国民に再認識されたところであり、生活行動様式や働き方に変化がみられるなか、造園建設業は、今後の社会経済を支え、人々が健康的に働き、住まい、楽しめる生活基盤を創造する担い手として、引き続き、人と自然が共生する緑豊かな社会の形成に貢献していくことが求められている。

一方で、わが国の人口減少、高齢化の進展による技術・技能者の高齢化や若年入職者の減少により技術・技能の承継が困難になる等の課題は造園建設業にとっても構造的な問題であり、次世代に技術・技能を引き継げる労働環境の整備に向け、着実に対応することが必要である。

(2) 諸課題への対応方向

造園建設業が、社会経済を支える生活

基盤を創出する担い手としての役割を今後とも果していくためには、地域の維持、緑の創造・維持・再生、伝統的文化の継承など社会の要請に的確に応えるとともに、担い手の育成・確保、造園力の向上、造園の社会認知度の向上、造園力の発揮機会の拡大、著しい工事原価や人件費の上昇への対応など受注環境の改善等に向けて、各種活動を展開していくことが必要である。

とりわけ、担い手の育成・確保に向けては、建設業における働き方改革、昨年度から造園建設業にも適用された残業時間の罰則付き上限規制等に適切に対応するとともに、法定福利費の確保・社会保険等の加入促進、週休2日の推進、安全衛生の徹底、女性活躍環境の構築、適正賃金の確保、生産性の向上、新規入職者の確保等に取り組み、雇用環境の改善を精力的に進めていくことが必要である。

造園力の向上に向けては、人口減少や高齢化、高度情報化、気候変動、生物多様性の確保など経済社会の潮流の変化や、国土強靱化、建設DX、地域創生、子育て支援、観光・スポーツ振興、グリーンインフラの推進、SDGsへの取組み、民有緑地等の質的量的拡大等の政策動向を踏まえ、激甚化する自然災害からの防災・減災、国土強靱化の推進、公園緑地や道路緑地等の効率的な整備・管理運営への対応力強化、持続可能な社会構築に向けた造園技術の展開など各種事業の企画立案、的確な実施に取り組み、造園建設業の明るい未来を切り開く基盤の構築を進めていく必要がある。

また、令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた被災地の復旧・復興に取

り組むとともに、横浜で開催される2027年国際園芸博覧会、全国都市緑化フェアの開催を支援し、これらを通じた魅力ある生活環境整備や新たな造園領域の展開に向け、造園建設業界の英知と造園力を結集し、取り組んでいく必要がある。

(3) 令和7年度事業の実施方針

令和7年度の事業に当たっては、諸課題への対応方向を踏まえ、「第4次財政・運営中期計画」(令和5年3月24日理事会承認)に沿って、健全な財政運営を

確保しつつ、以下の事項に重点を置き、事業の実施、組織運営に取り組む。

- 担い手の育成・確保、働き方改革への対応
- 造園力の発揮機会の拡大
- 資格制度の適切な実施と各種資格の取得の促進
- 建設キャリアアップシステムへの対応
- 安全衛生対策の推進
- 国際交流・協力の推進と2027年国際園芸博覧会の開催支援
- 会員拡大の推進

II. 令和7年度事業計画の概要 (小項目以下省略)

第1 主要な会務の実施

第2 造園技術、造園資材、造園工事施工の合理化及び造園業の経営の改善に関する調査研究

1. 造園施工技術、造園工事の安全対策の検討
2. 植栽基盤技術、街路樹等の植栽育成管理技術、造園関連資材の品質基準等の検討
3. 会員の実態調査
4. 若年入職者等の確保策の検討
5. 日造協活動の戦略的展開に関する調査研究

第3 公園緑地、道路、河川、住宅、工場、学校等の緑化行政に対する協力

第4 造園技術に関する国際交流及び協力の促進

1. 国際園芸家協会(AIPH)の活動への参加
2. 造園関係の国際機関、団体との交流
3. 海外の日本庭園の保全再生等への支援・協力
4. 国内外の最新情報の収集・発信
5. 国際園芸博覧会開催への支援・協力

第5 造園業に関する情報、資料の収集、提供

1. 技術・技能の向上、経営の改善等に向けた情報提供
2. 造園技術フォーラム等による技術情報の共有化
3. 安全衛生対策の推進
4. 行政情報等の提供
5. 会員名簿の発行

第6 関係行政庁その他関係機関への政策提言、建議、要望等

1. 要望・提言活動、意見交換会

第7 造園技術者及び技能者の養成、資格の認定並びに研究会、講習会等の開催

1. 技能五輪大会等への参加、協力
2. 全国造園デザインコンクールの実施
3. 担い手の育成・確保の推進
4. 資格認定事業等
5. 研修会等の開催
6. 会員のための福利厚生事業及び会員支援事業

第8 造園・環境緑化に関する普及啓発及び広報活動並びに機関紙、図書の刊行

1. 全国造園フェスティバル等の開催
2. 機関紙の発行等
3. 図書の刊行
4. メールニュースの配信
5. ホームページの改修

第9 その他本会の目的を達成するために必要な事業

1. 社会貢献活動への取り組み等
2. 造園・環境緑化産業振興会の活動
3. 表彰
4. 雇用改善事業等

第10 安心で安全な国土形成への支援活動事業

1. 大規模自然災害からの復旧・復興支援と防災協定の締結推進

学会の目・眼・芽 第141回

全国造園デザインコンクールとランドスケープ作品選集 造園家の芽

(公社)日本造園学会理事、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科教授 入江 彰昭
毎年開催される日造協主催の全国造園デザインコンクールは今年51回目となり、参加高校46校、応募数641点、と過去最多となりました。右グラフにみられるように第1回(昭和49年度)の参加高校9校、応募数84点から年々増え、参加高校が増えるとともに応募数も増えてきました。先生方の熱心な教育のおかげで、農業系の高校や大学の応募数が増えるとともに、工業科や普通科の高校、大学、専門学校から応募数も増えており、本コンクールを通じた造園に対する関心の広がりを実感できます。

全作品を通じて単に形態操作、特殊緑化技術のアイデアにとどまらず、実社会の課題を発見し新たな価値を創造

するストーリー性のあるデザインが多くみられました。例えば、「使われ活きる」場の利用や参加運営、地域交流や連携、活性化や再生、地域の風景づくりに向けた提案などです。造園デザインコンクールは、複眼の目で造園の現場を「見る・観る・診る」なかで、課題を発見し新たな価値づけにより創造的に解決するデザイン力を養う絶好の機会です。

一方、プロの造園家が応募する日本造園学会刊行のランドスケープ作品選集は、造園作品選集1992(第1巻)から隔年発行し2024(第17巻)までで813点掲載されています。その32年間の作品を振り返ると、地球環境時代を迎えた90年代は、自然復元や水辺の公園

緑地、道路や工場緑化、大阪国際花と緑の博覧会会場作品などの作品を多くみることができ、2020年代はモノからコトへ価値がシフトし、循環やシェアしあう場の活用デザイン、地域性や場所の潜在性をいかしリデザインされた環境デザインの作品が多くみられます。17冊の作品集は、造園家による時代のドキュメントとしてのランドスケープ作品を知る貴重な資料です。

ランドスケープ作品は、設計者のデザイン力と施工者の技術力がなければ、良質な空間は生まれません。さらにはエイジングの美を考えれば、高い維持管理技術も重要となります。作品集に掲載された作品データには、事業主・計画者・設計者・施工者・管理者が記載され、優れたランドスケープ作品づくりに貢献された地域で活躍する造園技術者の方々を知ることができます。



全国造園デザインコンクールの参加高校数と応募数

全国造園デザインコンクールに取り組む高校生や大学生、若き造園家の方々には、ぜひランドスケープ作品選集を片手に全国各地で活躍する造園家の作品現場を訪れてほしいです。なぜなら、造園デザインを学ぶには現場で本物を見ることが大切と考えるからです。

次の周年に向けて造園デザインコンクールが若い世代に造園への興味を醸成し、造園をポジティブに学び楽しむ場となるよう努めて、造園家の芽を育てることに少しでもお手伝いできたらと思います。

集草ボックス一体型のライダー、好評発売中

Husqvarna

RC320Ts AWD
1,586,200円(税込)
コンビデッキ別売

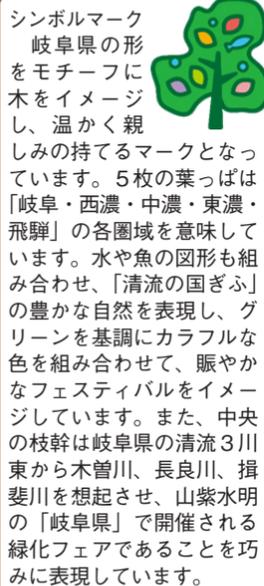
コンパクトな車体でバツグンの旋回性能!
ライダーから降りることなく刈高調整と刈芝排出が可能!

別売
コンビデッキ112
税込170,500円
■刈幅:1120mm

ハスクバーナ・ゼノア株式会社
〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9
0570-550933
受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日除く)
info.hv@husqvarna.jp ハスクバーナHP www.husqvarna.com/jp/ ゼノアHP www.zenoah.com/jp/

第42回全国都市緑化ぎふフェアのご紹介

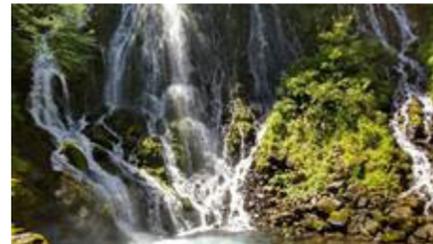
期間 4/23(水)～6/15(日) 54日間
主催 岐阜県・(公財)都市緑化機構



「清流の国ぎふ」のマスコットキャラクターのミナモトは、キラキラした川の水面に住んでいるキラキラの妖精で、2008年に岐阜県で開催された「ぎふ清流国体」のPRキャラクターとして誕生。「ぎふフェア」ミナモトはミナモトを衣替えし、花・みどりのある暮らしの普及啓蒙を図る祭典に相応しくレンゲ(県の花)の花束を持たせ、緑色のケープを着用しています。



芝生アート



乗鞍山麓 五色ヶ原の森

「中濃」の刃物や美濃和紙、鶏ちゃんなどの地域資源や自然を活かした岐阜県の「ものづくり」を知るきっかけとなるイベント等を開催します。

⑥各務原公園(各務原市)【未来・夢】
親子でのびのびと豊かな時間を過ごすことができる会場となっています。子どもたちがデザインした芝生アートの展示のほか、花やみどりにまつわるクイズラリーやお仕事体験といった、自然を身近に感じながら親子で楽しく過ごせるイベント等を開催します。

⑦飛騨会場(飛騨地域の大自然)【森】
都市部では体験できない飛騨地域の雄大かつリアルな自然を体感・体験できる取り組みを展開します。

今回のフェアの主催者は岐阜県及び(公財)都市緑化機構ですが、日造協本部、中部総支部、岐阜県支部の他に(一社)日本造園組合連合会、(一社)岐阜県造園緑化協会、その他団体に属さない造園事業者も含め、造園関係の仕事に携わる多くの事業者の参加・協力により行われるイベントとなっており、ぎふワールド・ローズガーデンには企業団体等から出展された40区画の庭園作品が展示されます。

会期中には総支部・支部長合同会議(5/27)と同会場の視察(5/28)も実施いたしますので、多くの皆様の来場を心よりお待ちしております。ぜひ岐阜県まで足をお運びください。

岐阜県支部長 中山 忠

ライン・ライブを体感する「フラワーリビングガーデン」や企業団体等による出展花壇・庭園の展示のほか、岐阜県内のバラ産地や「東美濃」の歴史・文化、特産品を紹介するイベント等を行います。

②ぎふ清流里山公園(美濃加茂市)

【里のみどり】

みどりに囲まれた里山の景色、農業体験など、里山の暮らしや文化に親しむことができる会場となっています。「花の段々畑」の展示のほか、岐阜県の郷土食やお茶、果物を使ったお菓子など「食」やそれを生み出す「農」について知るきっかけとなるイベント等を行います。

③養老公園(養老町)【歴史・文化・アート】

巨大な体験型アート作品「養老天命反転地」がある芝生エリアと「養老孝子物語」伝説の舞台である養老の滝などの歴史・文化が感じられる孝子坂エリアのそれぞれの風景を活かした、アートと共演する会場となっています。風車やひょうたんを彩った「アートガーデン」の展示のほか、地酒、薬草、古戦場など「西美濃」と関わりのある地域資源を紹介するイベント等を開催します。

④世界淡水魚園(各務原市)【水・川】

園内水路を色とりどりの草花で彩り、水と緑に囲まれた会場となっています。



花の段々畑



水上ガーデン



林のガーデン



アクセス Map & 会場位置図



フラワーリビングガーデン



アートガーデン

地域リーダーズ勉強会実施報告

徳島で開催 139名が参加



集合写真(徳島県のパークウエストン)

地域リーダーズ勉強会を2月20日(木)～21日(金)、徳島県のパークウエストンを会場に実施し、会員や賛助会員など全国各地から合わせて139名が参加した。

1日目【講演会】

講演会は2部構成で実施し、第1部は翌日の見学会を踏まえて「大塚国際美術館の歩みと楽しみ方」と題し、大塚国際美術館学芸広報部マネージャーの松浦奈津子様に講演していただいた。第2部では、地域リーダーズ初の試みとして

ワークショップを行った。お題を「地域リーダーズのシンボルツリーを考える」として、廣部総リーダーより趣旨と流れを説明。10名ほどのグループに分かれて、自己紹介を皮切りに自社や地元のことも交え話すことができ、会員間の交流がより一層深まった。

【交流会】

全国各地から多くの会員に参加していただき、今回は初めて参加される方も多く、いつにも増して交流を図ることがで



ワークショップの様子

きた。また、徳島と言えば「阿波踊り」、阿波踊りと言えば「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々」ということで、娯楽平連の皆様披露していただき、参加者も一緒に踊り徳島を味わうことができた。

2日目【見学会】

大塚グループが運営する陶板複製画の美術館「大塚国際美術館(鳴門市)」を見学した。展示スペースの広さは日本最大級で、陶器製の板に名画を焼き付けたレプリカは完成度がとても高く、世界中の名画を一度に見られる。

作品は古代から現代に至るまで極めて有名なものばかりを展示しており「原寸で鑑賞することでその良さを理解し、将来実物を現地で鑑賞して欲しい」との願いが込められているとのことである。

陶板複製画は原画と違い、風雨や火、光による色彩の退行に非常に強いため、写真撮影が一定条件下で許可されていたり、直接手を触れられたり、屋外の庭園にモネの『睡蓮』も展示されているのはその性質を生かした好例である。

館内にはレストラン、カフェ、ミュージアムショップもあり、一日ではとても回り切れないほどであった。

また希望者は、オプションで「うずしお観潮船」や、四国八十八箇所第一番札所である「霊山寺」を見学した。

【まとめ】

地域リーダーズは15周年を迎え、廣部新総リーダーのもと新たなメンバーも加わり初めての勉強会の開催となったが、四国総支部や徳島県支部の会員のご協力のおかげもあり、盛会に終わることができました。

また参加いただいた皆様のご協力にも深く感謝申し上げます。

来年度もいろいろ交流が深まる楽しんでいただける企画を検討してまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

四国総支部リーダー 田川 弘

ふるさと自慢 三重県 これからの人生を無事安泰に 太古の詩情を今に伝える椿さん



入道ヶ嶽

弊社椿工事事務所の西には、独特の地質と気候が作り上げた個性溢れる山々が連なります。これらは鈴鹿山脈に属し、その一帯は鈴鹿国定公園として指定されています。

親しみを込めて「椿さん」と呼ばれる椿大神社は、鈴鹿山脈の中央に位置する入道ヶ嶽を御神体とし、土公神・猿田彦大神を主神とする日本最古の神社です。

猿田彦大神は、地上に生きとし生けるものの平安と幸福を招く「みちびきの祖神さま」です。各界の第一線で活躍する著名人が多数参拝に訪れており、風格の漂うプロ野球選手と実際にすれ違った時には大興奮したものです。毎年2月の節分祭には佐渡ヶ嶽



猿田彦大神の御陵「高山土公神陵」

部屋から親方・力士が追儼役として特別参加し、福豆や紅白餅をまいて邪気を祓います。これを授かると1年間の無病息災が祈願されるとあり、県内外から訪れた参拝者が毎年競って手を伸ばしています。来年参加される方はぜひゲットしてください！

昨年10月の秋季例大祭では、還幸祭の輿丁役として、猿田彦大神の御神霊が遷された神輿を別宮・椿岸神社から本殿へと奉遷させていただきました。

前日の子ども神輿に初参加した長男が参拝者に交じって見守る中、白装束に身を包んだ我々20人で力を合わせ、約1トンの神輿を担いで歩きます。

その重さ以上の責任感に耐えて



参拝者で賑わう境内



別宮・椿岸神社

役目を全うした時、人生の無事安泰に対する感謝の気持ちを強く実感することができました。

我が家では参拝後、名物として愛される「椿とりめし」を必ずお土産にし、森閑とした雰囲気を出しながら、清々



本殿



パワースポット「かなえ滝」

しい気持ちで帰路につきます。太古の詩情を今に伝える椿さんに、皆様もぜひ足を運んでみてください。

三重県支部 近藤秀徳 (近藤緑化株)



椿とりめし

2025年度 造園 CPD

日造協の会員・資格保有者を対象に、造園 CPD 会員の新規・継続募集を5月に実施します。

造園 CPD は、技術者の学習を単位として認定。能力開発を支援、評価する制度で、経営事項審査(経審)や総合評

新規会員募集のご案内

価落札方式で加点評価されるほか、最新の技術や知識を学び、職員のスキルアップの機会としても活用できます。

詳細は、5月にお送りする「造園 CPD 会員の新規・継続募集」のメールをご確認ください。

うちには3匹のワンちゃんがいる。皆、黒のメスだ。これは、娘が欲しくて、人と同じことを好まない主人の趣味である。



左からモカ、カリ、リリー

最初にうちにやってきたのは、豆シバの長女、モカ。無駄吠えを一切せず、我慢の出来る、臆病なツンデレである。しばらくすると『もっと俺に甘えてくれる子はいないかなあ』と主人が言い出した。

爆発させて興奮したのは驚かされた。一番小さいが、姉たちの分まで吠え、ジャンプしてケージから出して頂戴！とアピールする。1.8kgなので、私はいつでも抱っこしてやりたいのだが、隙をみて腕から飛び出し、部屋中を疾走する姿は、まるで黒ウサギのようだ。



そこでやってきたのが、ミニチュアシュナウザーの次女、カリ。抱っこをおねだりする甘えん坊で、主人の願いを叶えてくれた。だが、強烈な番犬体質で、宅配のおじちゃんの太ももを噛んだこともある。それから3年経ち、一人息子が巣立つと、胸にポッカリと穴が空いた。

小さなリリーは、よく立ち上がって姉たちの鼻先を両手で挟むようなちょっかいを出す。姉たちは、怒りもせず、その遊びに付き合っている。皆で遊ぶのを見ていると、娘たちも3匹いて良かった、と思ってきているのかな、と思う。

その穴を埋めるべくやってきたのが、トイプードルの三女、リリー。子犬のリリーがきた時は、見た目のよく似たカリが母性を

うちでは、夕食後に娘たちと戯れるのが日課である。ストレスを癒してくれる娘たちに感謝しつつ、ずっと愛情を注ぎ続けようと思う毎日である。

山口県支部 藤本理恵子



事務局の動き

- [4月] 2(木)・広報活動部会 7(月)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会) 10(木)・技術・技能・調査部会 13(日)・2025年日本国際博覧会(「大阪・関西万博」)～10/13 15(火)・運営会議 植栽基盤診断士認定委員会 16(水)・都市公園緑地等促進議員連盟 17(木)・安全部会 18(金)・都市緑化ぎふフェア 庭園展コンテスト審査会 23(水)・第42回全国都市緑化ぎふフェア～6/15 [5月] 8(木)・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会)・総務委員会(広報活動部会) 14(水)・総務委員会及び財政・運営部会合同会議 15(木)・運営会議 17(土)・日本造園学会全国大会(100周年記念)～18 地域リーダーズ勉強会(総支部代表)～18 27(火)・総支部長・支部長合同会議/通常理事会/花と緑のつどい 28(水)・第42回全国都市緑化ぎふフェア視察

委員会等の活動

- 広報活動部会 3/4 日造協ニュース3月号の内容確認、2025年7月までの記事構成:2025年度からの造園フェスティバルのテーマについて審議 ●財政・運営部会 3/19 令和7年度事業計画(案)・収支予算(案)、令和6年度収支決算見込(本部)等について審議 ●技術・技能・調査部会 3/4 人材育成研修の「竹垣技能編」の編集と開催方法について審議 ●安全部会 3/13「造園工事の樹上安全作業マニュアル(ダイジェスト版、ポケット版2種類)」を会員へ配布 ●地域リーダーズ(WEB) 3/10 来年度の事業計画について審議 ●街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会) 2/12 街路樹剪定士認定試験(12～1月開催分)と緑地樹木剪定士認定試験(冬期)の可否判定、街路樹剪定士指導員研修会の開催について審議 ●植栽基盤診断士認定委員会(試験部会) 2/18 来年度の植栽基盤診断士補研修会修了試験と植栽基盤診断士認定試験(学科試験)の問題作成について審議 ●能力評価同時申込機能操作説明会(WEB)

新入会員のご紹介

ようこそ日造協へ!

Table with 2 columns: 社名/住所 and 代表者/FAX. Includes entries for (株)橋本農園 and (株)関城造園.

Table with 2 columns: 社名/住所 and 代表者/FAX. Includes entries for (株)ならはら園芸 and (株)齊藤造園.

日造協賛助会員の紹介 EF Polymer (株)

100%オーガニック、完全生分解の吸水性ポリマー「EFポリマー」

○会社概要 弊社はインド生まれで沖縄育ちの新素材・農業スタートアップです。オレンジやバナナの皮など、従来捨てられていた残渣をアップサイクルし、100%オーガニックの超吸水性ポリマーの「EFポリマー」を製造・販売。持続可能な農業や緑化事業を目指しています。

○製品特徴 EFポリマー1gあたり約50倍の水を吸水し、土中で水の吸水・放出を半年間繰り返し、約1年で完全に生分解。完全有機・完全生分解性を有するポリマーは世界初。有機JAS資材登録済みです。

○利用場面 植栽、観葉植物、芝生、育苗など幅広い場面でご活用頂いております。近年、猛暑による乾燥や水不足の問題が深刻化。また灌水には多大なる労力・コストがかかっています。そういった場面でEFPを使用する事で乾燥対策、灌



水頻度の削減など水やりの管理コストを抑える事が可能になります。芝生においても活着促進や枯れ防止にご活用頂いております。今年も猛暑が来る前に是非ご活用ご検討ください!

○お問い合わせ 使い方や活用事例、購入方法などの詳細、またご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡くださいませ。

EF Polymer 株式会社 〒904-0495 沖縄県国頭郡恩納村谷茶 1919-1 Innovation Square Incubator 問い合わせ:efp-japan-office@efpolymer.com 会社URL:https://efpolymer.jp/

2/21 3月から始まる技能者登録と能力評価のワンストップ化に関する画面操作方法について説明を受けた。

- 登録造園基幹技能者講習 2/27 北海道(札幌)で開催し13名が受講 ●資格制度委員会(全国) 3/5 R6年度の事業報告とR7年度の事業計画について審議し、総支部の意見集約や委員会報告、資格の活用、CCUSなどについて意見交換。会議終了後に小石川後楽園を視察 ●登録造園基幹技能者講習委員会(試験委員会) 3/10 今年度実施した4会場の修了試験の採点と来年度の開催計画について審議 ●街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会)

編集後記 新年度となりましたが、いきなり雨の日々。でも植物にとっては恵みの雨。今年度も頑張っていきたいと思います。